ART EXHIBITION 2013

畦地拓海「感覚」
2012年 優秀賞

2013年
6.6(木)—6.24(月)

会場：氷見市海浜植物園
1階特設ギャラリー（入場無料）

［開館時間］ 9時～ 17時
［休館日］ 火曜日

漂着物アート展 2013

プロデュース：富山大学芸術文化学部教授
後藤　敏伸
主催：(一財)氷見市花と緑のまちづくり協会
(公財)環日本海環境協力センター
後援：富山県、富山大学芸術文化学部
(公財)とやま環境財団
協力・作品制作：富山大学芸術文化学部

漂着物アート展2013　作品名一覧

No.1　最優秀賞

MESSENGER

BRANNA DOROTA

この作品はノアの方舟の話、特に新しい世界のメッセージとしてオリーブの枝をその背中に運んできた鳩をテーマにしています。新しくそしてピュアな世界。これは現在のテーマとも言えます。世界は変化し続け、私たちも新しいもの、今までと違うものを求めていると思い、ここにメッセンジャーを作りました。このメッセンジャー －鳩－は、人間が自身の周りの世界に対する姿勢を映しているのですが、残念なことに汚い姿で表現されています。私たちは自然、生態系、そして人間同士の関係を一度見直さなければなりません。作品はすべて海岸に打ち上げられた素材のみで造られています。

I based my work at the ancient story about Noah's ark, especially that part when the dovebrings the olive branch in her beak as a message of a new world. That the new and pureworld is coming. And because it is an actual theme these days too- that the world is changing,and we are waiting for something new and different,　I made a messenger too. But minemessenger - a dove, which should reflect attitude of human kind for the world around us isunfortunatelly depicted as a rotten dove. We should rethink our relationship to nature, ecology,and human relationships at all. Dove is made only from material washed up on seashore.

No.2　優秀賞

内包する連鎖　　野尻 恵梨華

人間の勝手な都合で不法投棄されたゴミは、生態系にゆっくりと悪影響を及ぼします。

生物の誤食、ゴミから出る有害物質による海洋汚染は生物の健康を徐々に虫食み、死へと追いやります。

彼らはまるで染色体まで虫食まれているかのようです。

私たちの見ていないところで、生物の体内では死への鎖が連なり続けています。

そしてその「生物」には、人間も含まれているのかもしれません。

No.3 優秀賞

帰れぬもりへ　　江越 知比呂

うみはもりと繋がっているといわれています。
けれども、わたしたち人間はどちらも汚して生きています。

声を出せないうみともりの、その象徴としてこのシカを摸したかたちをつくりました。

シカから流れるライトグリーンの色は、
彼ら生き物の涙であり、うみともりの中間のいろにしました。

No.4 優秀賞

海のパーシャ　　佐藤　由季

浜辺は脳みそ、波は刺激。
打ち上げられた漂流物は頭に浮かんだ思想たち。
絡み合った思想をほぐしてほぐして、今日も長くて丈夫な羂索をつくる。
アモーガパーシャはすべてを救う縄、羂索をもった不空羂索菩薩のことです。
パーシャ＝羂索を欲しているのは、海自身なのかもしれません。

No.5 奨励賞

キレイになりたい　　新井　智子　　稲沢　瞳

浜辺にはたくさんの漂着物があります。それらはきちんと分別してリサイクルされていれば新しくキレイに生まれ変わることができたはずのモノばかりです。しかし、面倒だからと無残に捨てられ、海に流れて、岩にぶつかり、泥にまみれ、やがてボロボロに汚れた状態でうちあげられます。
「こんな姿になりかったんじゃない･･･キレイになりたい･･･キレイになりたい･･･」
あにたには彼らの悲しみの声が聞こえますか？

No.6 奨励賞

難破船　　山田　栞

地球のゴミで沈んだ船。

No.7 奨励賞

樹木 –mother of sea–　　高松 美波

生命の誕生は海から、と言いますが、人間もその“名残”が残っているのでしょうか、海を見るとざわついていた心が落ち着きます。それは子供が母親の腕の中にいる感覚に似ているので、人類の母は海、と言ったところでしょうか。

最近の“母”はだんだん汚れてきているように感じます。昔の“母”はあんなにキラキラしていて、どこを見ても美しい存在だったのに。“子供”が作ったものがそこら中に散りばめられています。なんとも汚らしい、偉大なる“母”を汚したのはどこの“子供”なんでしょうか。

No.8 奨励賞

うみの木

伊藤 さくら　　冨川 真利　　濱松 佑理

これは、うみを象徴する一本の木です。

海は自然の姿のままでありつづけようと空に向かって力強くのびていますが、それをさまたげるように足元をむしばんでいるのは、私達人間が捨てたゴミたちです。

No.9 奨励賞

光　　森本 倫子

漂着物や漂流物によって本来の美しい姿を失っていく海を表現しました。中から溢れだす繊維の塊には海藻を混ぜてあり、海の香りがほのかにするので近づいて海を感じてみて下さい。

No.10

再生から発現へ　　森井 大仁

私達は新しい物を生み出しては壊れたら廃棄、もしくは埋め立てを繰り返します。
それに反して自然界では全て循環し、人の力では及ばない力が存在します。
私達が普段は意識しているようでしていない自然の力の大きさと人工的な無機質なイメージを形と色で表現しました。

No.11

hilite

平野 暉　　齋藤 友郎

雑多な人工物の中にうもれる自然物の美しさに気づいてほしい。
ゴミの中に光る、ハイライト。

No.12

ウミドリ　　池田 晴美

海に沈んでしまったウミドリの姿。

No.13

人間の想った海　　大束 奈穂子

　海から今日もいろんな贈り物が届きました。ゆらゆらと輝く青、静かな音、滑らかで、個性的な形の小さなまる。ある海の生き物たちからは、昔住んでいた、ほのかに色づいた家。どれも素敵なものばかりです。
　海から素敵な贈り物をもらった人間たちは、きれい、と喜び、持ち帰りました。
　そんな中のある一人の人間は、きれいをくれた海に、そのお礼として、きれいを返したいと思いました。そこでこの人間は、海からの贈り物で小さな海をつくりました。このきれいな海を、思うままに。
　海は本当にいまその人間の想った海の形ですか。

No.14

海音

岡野 亜耶

海の中はいろんな音で溢れています。
水の流れ、砂の動き
植物のゆらぎ、生命の息づかい
それらはひとつとなり時に激しく、時に穏やかに、海全体に広がります。
海が奏でる自然のメロディー。
それは、私たちが聞くことのない海の音。

No.15

重なる島

小野 志織

かにも貝も木もごみも重なって、一つの島になる。
たくさんのものが流れ着き、島のまわりにたまって重なっていく。そしていつか島の一部になる

No.16

海の色

木ノ内 涼香

私は最初に海のキラキラと光る水面や生物達が力強く生きている水の中を表現したいと考えました。　ビーチガラスなどで海の綺麗で美しい部分を表し漁網でそれらを守るような、そして捕まえられているようなイメージで配置しました。
初めに考えていた美しいだけのイメージから切り替え、私たち人間との関係もあらわすことができたらいいなと思い制作しました。

No.17

迸出：螺旋　　小泉　巧

迸出（へいしゅつ、ほうしゅつ）
［名］（スル）ほとばしり出ること。ほうしゅつ。
　偉大なものすら自分のものにしようとする、内在している邪に未だ気付かない。手を伸ばし、絡み、巻き付いて、縛る。穢してはならない領域に踏み入り、逃げ出そうとするならば、それを許さないモノに阻まれる。自らが嫌うことを、自ら陥って、勝手に苦しむ。

滑稽。

No.18

うねりの先に　　鈴木 絢子

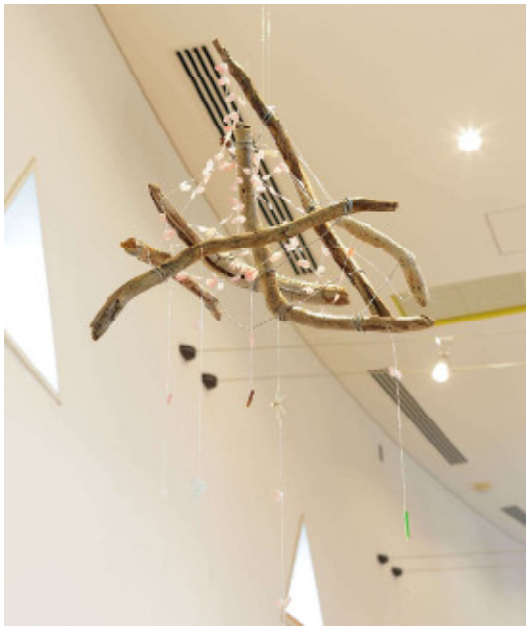
　目の前のこと気をとられ、目先の楽ばかりに流されている私たち。しかし、昨日が今日と変わらないからと言って、今日とわらない明日が来る保障なんてない。もしも魚が採れなくなってしまったら？作物が実らなくなってしまったら？水がなくなってしまったら？
　私たちも、私たちを包む環境も、とても危うくて、稀有な存在だということを思い出さなくちゃいけない。未来を生きるために、うねりの先にあるかもしれない危機について考えなきゃいけない。

No.19

海中の桜　　中村 百恵

海岸でたまに見つける桜の花びら。
かわいくって手にとってみると
繊細な花びらはすぐに壊れてしまいました。

　知っていますか？
この花びらがどこからきたのか。
“海の中にも桜が咲くの”と母から教えてもらった記憶をたどって海中に咲く桜を咲かせてみました。



No.20

空　　田中 一夢

この作品はなんだろう？
それを考えてもらうことが私の作品です。
あなたはタイトルを何と発音しますか？
「ソラ」でしょうか。「カラ」かもしれません。
それだけで、作品の見方はガラリと変わるはずです。
カラにも色々あります。
「殻」「空」「韓」とさまざまです。
浮きの中身は「空」です。
浮きには貝「殻」がたくさん貼り付けられています。
貝殻のほかにも「空」き瓶の破片もみつかるでしょう。
この作品を色んな見方で楽しんでもらえればなあ。
そのように思います。

No.21

くじら　　小澤 マリナ

海は広大だもの、こんなくじらがいるかもしれない。
「さあ、一緒に泳ごうよ！」

No.22

生け花　　廣瀬 由佳

浜に流されたゴミや木片。
本当はリサイクルされてまた別のものに生まれ変われたのに、
こんなに迷惑な存在なんかになりたくなかった。
せめて美しいものになってみたかった。
そんな彼らの思いを
美や風流を連想させる生け花に表現してみました。

No.23

流されちゃった

松井 菜見子　　大門 紗衣子

漂流物といってもかつては生命を宿し、海の中で生きていた貝殻たち。その貝殻たちを拾い集め見てきた世界を表現しようと考えました。1枚ずつしか持ち合わせていない貝にもう一度自由に動き回るための手段を与えたい、その思いから色とりどりの手足を授けました。

No.24

渡り鳥

山本 祥代

流されるままにふらふらと。居心地のいい場所を求めて、どこにいてもはじき出されるような気分で。

昔は何か役目があったような気もするのだけど、いつの間にやら空っぽだなぁ。取り敢えず笑っておこう。きっとこれは喜劇なんだろ。幕の下りるのをもうずっと待っているのだけど。

No.25

自然の中で

家城 綾乃　大石 彩乃　酒井 紫帆

この作品は、自然の中で行われる様々な出来事からイメージしました。すぐ近くで行われているにもかかわらず、自分たちは意識することがなかなかありません。こうしている今現在も、どこかで行われています。

普段あまり気にせず通り過ぎてしまう自然を、今回じっくり観察することで、とても新鮮なものに感じました。

この作品を見た人が、普段何気なく、またせわしなく通り過ぎてしまう自分の時間について、一度立ち止まってゆっくり振り返る。そんなきっかけを生み出す作品になればと思い制作しました。

No.26

海の家

堀　佳奈恵

夏の風物詩、海の家
海水浴での楽しみの一つです。

遊び疲れを涼しさと食べ物で癒してくれる
夏にしか見ることのできない小さな建物。

どこか懐かしくて、楽しい
そんな海の家をイメージして制作しました。

漂着物アート展 2013

ART EXHIBITION 2013

県内をはじめ国内の海岸に流れ着く多くの漂着物（漂着ごみ）、そして、日本国内からも流れ出ていくたくさんのごみ（漂流ごみ）…　きれいな海岸の景色を損なうだけでなく、海に暮らす生き物や漁業への影響も心配されています。

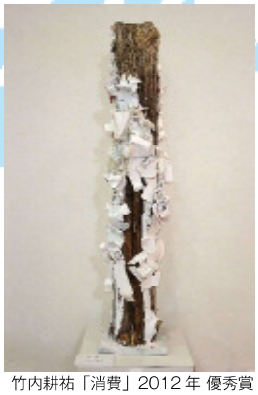
こうした海洋ごみのほとんどが身近な生活ごみであることを、皆さんご存じでしたか？　私たちは、知らず知らずのうちに大切な海を汚しているのです。きれいな海を将来に残していくためには、私たち一人ひとりがこのことを理解し、身近なごみをきちんと始末するなどの取組みをすぐに始めることが必要です。

このようなことから、次の時代を担う青年芸術家が海岸漂着物を利用して制作したアート作品を展示する「漂着物アート展 2013」を開催いたします。

このアート展をきっかけとして、私たちの大切な海を守るために何をすべきか考え、みんなで行動してみませんか。

岡西壮一朗・原口碩
「お前もそのうち食ってやる！」
2012 年 最優秀賞

井澤郁子「はは」2012 年 優秀賞



竹内耕祐「消費」2012 年 優秀賞

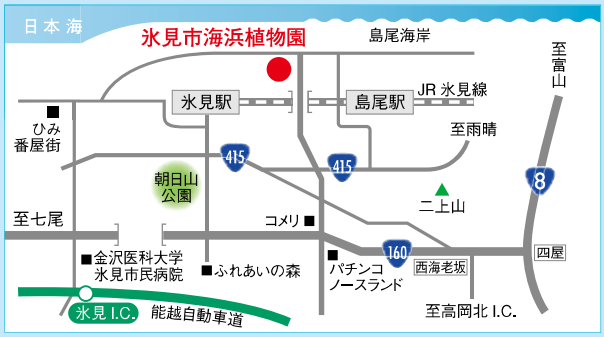
お問い合わせ先

氷見市海浜植物園
AROMA GARDEN

氷見市海浜植物園
富山県氷見市柳田 3583
TEL0766-91-0100

NPEC

(公財)環日本海環境協力センター
富山県富山市牛島新町 5-5
TEL076-445-1571



交通のご案内
◎JR 氷見線島尾駅下車、徒歩で約15分　◎能越自動車道高岡北 I.C. から車で約15分